

# 日川白鳳(ひかわはくほう)

登録番号：第123号

育成者：田草川利幸

登録年月日：昭和56年5月27日

来歴：「白鳳」の枝交り

登録者：田草川利幸

(山梨市一町田中241)

## 特性

### ■栽培特性

樹勢は若木時代は強めであるが、ほぼ中程度とみてよい。樹姿は開張性で、早生品種の中では目立つ特徴である。したがって主枝の確立・維持に留意し、場合によっては帆柱を立てて枝を吊るのも良い。この点低樹高志向の時代に合った品種とも言える。

葉芽や花芽の着生は「砂子早生」などより多く「白鳳」程度であるから、剪定に特別の配慮はいらない。また花粉も豊富で、生理的落果も少ないので、結実は安定している。したがって果実の肥大を助けるための、摘蕾や摘花を容易に実施することができる。裂果が少なく果実の着色も良いので袋掛けは省略できる。また着色管理も比較的簡単ですむ。

収穫に当たっては着色に悪わされて、未熟果を収穫しないように心掛けねばならない。本品種は早生としては日持ちが良いので、完熟に近いものを収穫できるし、そうすれば当然品質も高まり、果形も丸味を増して大きくなる。

### ■果実特性

果形は幼木時代に腰高(短楕円形)が目立つが、樹齢と共に丸味を増し、円形になる。果頂部は浅く窪み、大きさは200~250g程で、玉揃いも比較的良い。核割れやこれに伴う変形果は当初心配されたが、「砂子早生」より少なく、大きな問題にはなっていない。

果皮の地色は白、果面の着色は「砂子早生」より容易で濃く、「倉方早生」に近いくらいである。果肉は白色で、肉質は早生品種としてはち密で柔軟・多汁である。

食味は「砂子早生」や「倉方早生」に優り、早生品種としては品質良好である。

成熟期は満開後81~90日で、「砂子早生」と「倉方早生」の中間、甲府盆地で6月末から7月初めに収穫される。

### ■病虫害抵抗性

他品種と比べて、特に弱い病虫害はないが、成熟期が梅雨期に当たるので、灰星病その他の果実腐敗病に対する防除は徹底しなければならない。

### ■地域適応性

土壌その他に対する適応性は普通であるが、早生品種の中でも早いので、早場産地向きである。特に最近、施設栽培の中で、本品種が注目され、普及しつつある。

平成元年度の山梨県での栽培面積は成園82ha、未成園78ha、生産量117tであり、引続き増加の傾向にある。

(山田喜和)